

東洋製罐グループ CSRレポート2017

2017



発行・連絡先 東洋製罐グループホールディングス株式会社 CSR部
〒141-8627 東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング
Tel. 03-4514-2303

東洋製罐グループのCSRに関するご意見・ご感想をお聞かせください。

● CSRレポートアンケート <http://www.tskg-hd.com/csr/enquete/>



2017年9月発行

ひらき、心ときめく

1917

東洋製罐グループは、事業活動を通して社会課題の解決に貢献する。
グループ全従業員は、日々の業務が社会への責任を担っていると認識し、活動する。
これが、東洋製罐グループが目指すCSR経営です。
「包みのテクノロジー」をベースに、「ひらき、心ときめく」価値を創造し、
持続可能な社会の実現に貢献する企業を目指します。

2017

目次

| | |
|---|----|
| 編集方針 | 2 |
| 基本報告・目次 | 3 |
| 会社概要 | 4 |
| あなたの周りに東洋製罐グループ | 6 |
| トップインタビュー | 8 |
| 新たな100年に向けて、 人と社会に貢献できる基盤の整備を進めています。 | |
| 特集 東洋製罐グループ100周年のあゆみ | 10 |
| 東洋製罐グループのCSR経営 | 14 |
| Environment | |
| 地球環境とのかかわり | 16 |
| Social | |
| 品質保証体制 | 19 |
| 受賞実績 | 21 |
| 従業員とともに | 23 |
| 社会貢献活動 | 25 |
| Governance | |
| コーポレート・ガバナンス | 27 |
| コーポレート・ガバナンスの充実に向けた 社外取締役の取り組み | 28 |
| コンプライアンス | 30 |
| リスクマネジメント | 31 |
| 役員一覧 | 32 |
| 財務・決算 | 33 |
| 東洋製罐グループ関係会社 | 34 |

編集方針

東洋製罐グループでは、持株会社体制のもと、「東洋製罐グループの経営思想」に基づきCSR経営を推進しています。

本レポートは、ステークホルダーの皆さまへの東洋製罐グループのCSRに対する考え方や活動を、わかりやすくお伝えすることを目的として作成しました。

本年より、私たちの具体的な動きがより皆さまに伝わるように、ESG（環境・社会・ガバナンス）別に構成を変え、2016年度に実施したアクションを中心に紙面づくりをしています。本冊子に掲載されていない「方針・体制」などの情報についてはWebサイトをご覧ください。

私たちは、ステークホルダーの皆さまとの誠実な対話とそこから始まる行動をCSRの基本姿勢としています。皆さまからのご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。

<http://www.tskg-hd.com/csr/>

基本報告

報告書の対象範囲

東洋製罐グループホールディングスを含む
国内・海外グループ会社

対象期間

2016年4月1日～2017年7月31日

数値データ

2016年4月1日～2017年3月31日

発行

2017年9月（次回2018年9月発行予定）

参考にしたガイドライン

ISO26000（社会的責任に関する手引）

各社の詳しい活動については、下記をご覧ください。

東洋製罐株式会社：サステナビリティレポート

東洋鋼板株式会社：CSR（Webサイト内）

東罐興業株式会社：環境・社会報告書

日本クロージャー株式会社：環境・社会報告書

東洋ガラス株式会社：環境・社会報告書

東洋エアゾール工業株式会社：環境について（Webサイト内）

東罐マテリアル・テクノロジー株式会社：環境・社会報告書

東洋製罐グループホールディングス株式会社

創 立 1917年(大正6年)6月25日

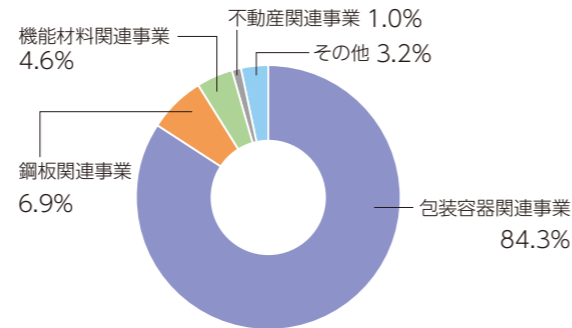
代 表 者 代表取締役社長 中井 隆夫

資 本 金 110億9,460万円

本 社 〒141-8627
東京都品川区東五反田2丁目18番1号
大崎フォレストビルディング

従業員数 397名(連結18,490名) 2017年3月31日現在

事業種別売上高構成比



事業紹介

包装容器関連事業



缶詰用空缶やプラスチック製容器をはじめ、キャップ・ガラスびん・紙製容器・エアゾール製品など、日常生活を支える各種包装容器の製造販売を中心に事業を展開しています。

鋼板関連事業



缶用材料をはじめ、電気・電子部品用材料、自動車・産業機械部品用材料、建築・家電用材料など、暮らしのあらゆる場面で活躍する各種鋼板材料の製造販売を中心に事業を展開しています。

機能材料関連事業



磁気ディスク用アルミ基板・光学用機能フィルム・塗薬・微量元素肥料・顔料・ゲルコートなど、多種多様な機能を備えた材料の製造販売を中心に事業を展開しています。

機械設備事業



容器製造用設備・充填巻締設備をはじめとする包装容器関連機械設備などの製造販売を中心に事業を展開しています。

その他事業



硬質合金・機械器具・農業用資材製品などの製造販売、石油製品などの販売、損害保険代理業および不動産管理業などの事業を展開しています。

新規事業



保有するコア技術を活用し、IT・エネルギー・ライフサイエンス・ナノテクノロジーなどの新たな分野へ事業領域を拡大しています。

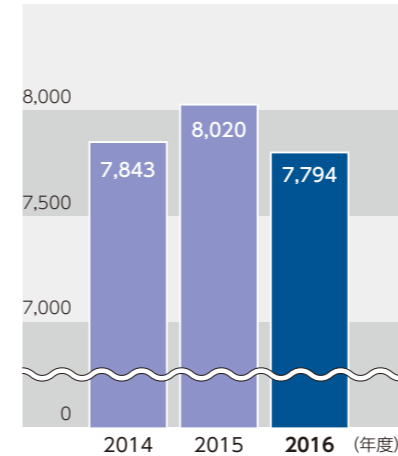
物流事業



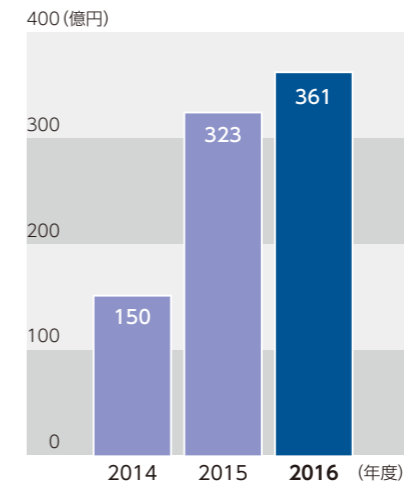
主にグループ会社向け貨物自動車運送業や倉庫業などの事業を展開しています。

データ(連結)

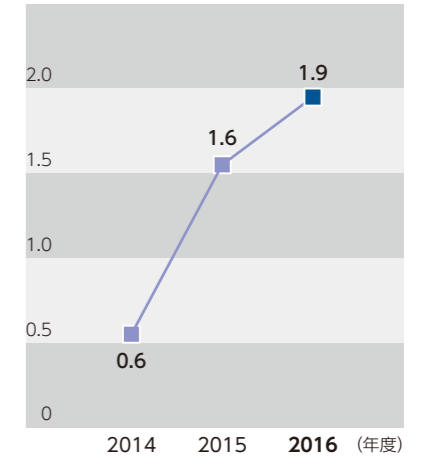
売上高
8,500(億円)



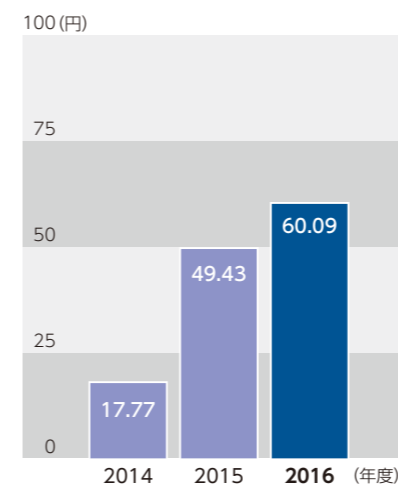
営業利益
400(億円)



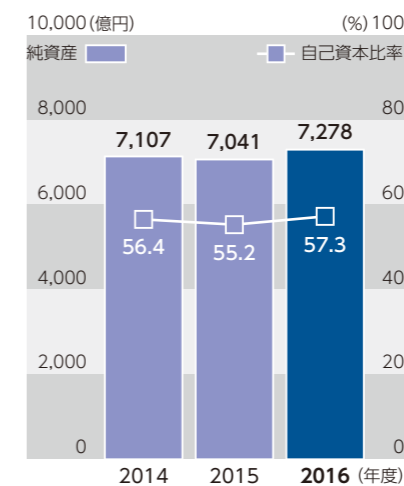
ROE
2.5(%)



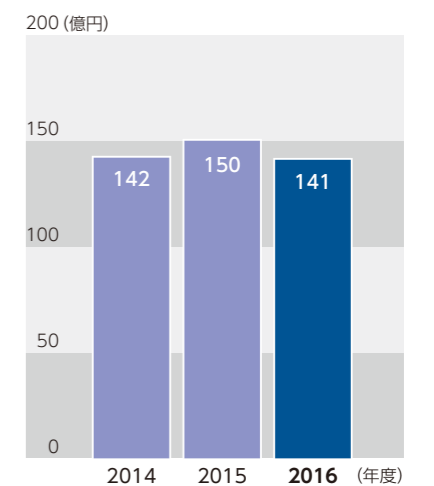
1株当たり当期純利益
100(円)



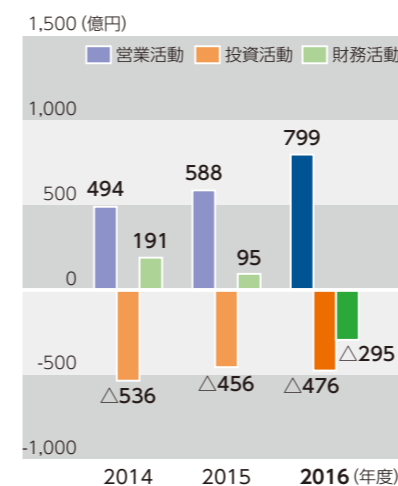
純資産・自己資本比率
10,000(億円) (%)100



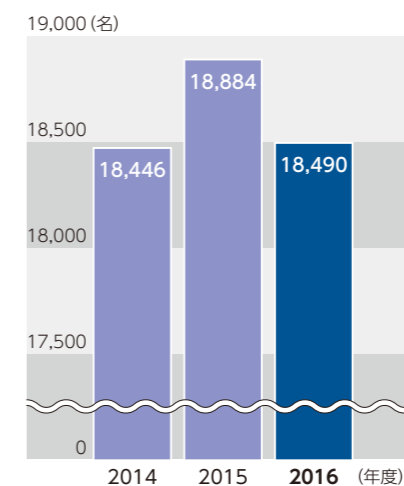
研究開発費
200(億円)



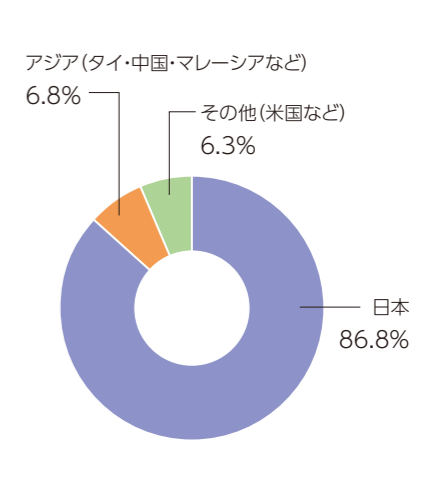
キャッシュフロー
1,500(億円)



従業員数
19,000(名)



所在地別売上高構成比



あなたの周りに東洋製罐グループ

東洋製罐グループの製品は、日常の身近なシーンで活躍しています。
安全・安心な品質と安定供給で皆さまの豊かな暮らしを支えています。



磁気ディスク用
アルミ基板
デスクトップPCやサー
バー、デジタル家電を中
心に使用されています。



コップ・グラス



飲料用のびんとキャップ
コーヒーのコップ



洗剤のボトル
詰め替え用パウチ



消臭剤の缶・充填



冷蔵庫扉材



食用油のボトル
みそのカップ
食品用の缶



人造大理石キッチンカウンター



消毒用アルコール
のボトル



流動食のパウチ



ハイブリッドカー用の
電池部品材



ダッシュボード向けの
着色剤
自動車の内装などに使用し
ている樹脂を着色します。



ジャム・牛乳・お酒のびん
とキャップ



スタック型タンブラー



アイスやヨーグルトのコップ



缶・びん・PETボトルと
キャップ



段ボール

新たな100年に向けて、 人と社会に貢献できる 基盤の整備を進めています。

創業100周年。新たな世紀に臨む 『東洋製罐グループの経営思想』を制定

2017年6月、東洋製罐グループは創業100周年を迎えました。長きにわたって事業の成長を見守り、支えてくださった多くのステークホルダーの皆さまに感謝を申し上げます。

東洋製罐には、創業者である高碇達之助がまとめた『我が社の根本方針』と『従業員服務精神』があり、今日まで事業継続の根本精神として受け継がれてきました。この根本精神を基本に、変化する社会のニーズに対応しつつ、中核となる包装容器事業において、スチール缶、ガラスびん、アルミ缶、フレキシブルパウチ、PETボトルとポートフォリオの組み替えを行ってきたことが、現在まで事業を継続できた要因だと考えております。

近年、持続可能な社会の実現が強く求められています。現代社会に求められる新たな考え方も取り入れ、昨年『東洋製罐グループの経営思想』を制定しました。これは次の100年を見据えてグループ従業員全員が共有していくべき道標となるものです。

公取調査を厳重に受け止め、業務を改革

残念ながら100周年を前にした2017年4月、東洋製罐は公正取引委員会による独占禁止法違反に関する立入検査を受けました。現在も調査が続いていますが、調査には積極的に協力してまいります。このような事態に至ったことを真摯に受け止め、今後二度と同じ事態を起こさないために、ただいまグループをあげて法令遵守やコンプライアンスの徹底に取り組んでおります。

具体的には法務研修の開催を重ねているほか、『東洋製罐グループの経営思想』にも示している「公明正大」の重要性を理解し、実現するために私自身が声を大にして意義を発信しつつあります。同時に、私たち自身が気付いていない業務上の課題があったからこそ調査に至ったのであり、その課題を検証し、改めてまいります。

中長期的には売上高増加を目指した改革が不可欠

2017年3月期の連結売上高は7,794億円（前期比2.8%減）、営業利益は361億円（同11.9%増）、経常利益は361億円（同35.4%増）の減収増益となりました。

売上高の減少については、包装容器関連の機械設備や飲料容器の販売が低調であったことや、円高の影響により海外子会社の売上高が円換算で減少したことなどが要因です。利益

面では、為替の影響やグループ全体のコスト削減効果、原油安の影響によって原材料・エネルギー価格が前期を下回ったことなどから増益になりました。

ただ、中・長期的な視点で検証すると、売上の低下に歯止めをかけ、売上高増加に対応していくことは不可欠です。

事業会社の垣根を越えてグループシナジーを 発揮できる体制づくりに力を注いでいます

これらの環境変化を踏まえ、足元では「開発・営業戦略室」を設置する一方、「クロス・ファンクショナル・チームの強化」に取り組んでいます。

2017年4月に設置した開発・営業戦略室は、各事業会社の5～10年後の事業の柱になるものをグループホールディングス会社を中心になって育成する取り組みです。いわば開発と営業に横串を刺し、双方の担当役員やスタッフがタッグを組む形で戦略的に育成します。

クロス・ファンクショナル・チームは、グループ内の各事業会社が事業の垣根を越えて互いの力を持ち寄り、既存製品であっても新たな付加価値の創造に挑む取り組みです。すでに紙コップの高速化技術などにより、競争優位性の高い技術や製品を送り出しています。

事業を評価する際に参考にしたいと思っているのが、NPVI(New Product Vitality Index = 新製品売上高比率)です。過去5年間に発売された新商品が全体売上高の何パーセントを占めているかを示す指標で、企業のイノベーション度合いをはかることができます。海外では業界は違うものの30%近い実績を示している企業もありますが、東洋製罐グループでは数パーセントと推定しております。

「新製品が生み出せていない」という危機感をバネに、新技術や新製品の開発に全力を挙げて取り組んでまいります。

「働き方改革」に取り組む始めます

働き方改革や健康経営、女性の活躍を第一歩とするダイバーシティの推進などは喫緊のテーマです。『東洋製罐グループの経営思想』でも、「一人ひとりの力を最大限に発揮し、自己の成長と共に社会の繁栄に努めます」と宣言しています。

私たちは、生産性の高い働き方を創造して、仕事と生活の質の向上を目指し、具体的な改善を積み重ねています。

また健康経営をより強く推進するとともに女性の活躍などダイバーシティを充実させます。

例えば女性の活躍ですが、そもそも東洋製罐グループが生み出している食品や飲料、生活用品などの容器は当然女性にとっても身近な存在です。その視点をものづくりに反映させることは、新たな発想で世の中に貢献できる製品を生み出すことにもつながります。

グループ主力統括5社の女性採用比率は全部門で17%、事務系と技術系で27%に拡充しました（2017年新卒者と2016年中途採用者）。いずれも前年度実績より数ポイント向上していますが、2018年からはさらに製造・現業系を含めた「30%」という目標への取り組みを始めます。そのために製造・現業系ではAIの活用や自動化、作業削減のための設備の積極的な導入を進めてまいります。すでに先行事例として東洋製罐大阪工場では製造・現業系での新卒女性採用を目指すプロジェクトも始まっています。

総合容器グループとしての 真価を発揮できる状況が出現しています

国内の包装容器需要は、少子高齢化により減少傾向にありますが、世界に目を転じればアジアを中心に大きな伸長が見込まれます。また世界のパッケージトレンドは、「厚重から軽薄」に移りつつあります。つまりガラスびんや缶から、軽量で廃棄が容易でリサイクルも可能なプラスチックやフィルムに移行してきているのです。

一方で、軽薄と保存機能は反比例します。ここに、東洋製罐グループが長年培ってきたバリア技術や環境にやさしい容器をつくる技術が求められるのです。まさに総合容器グループとしての真価を発揮し、世界の発展に貢献できる状況が出現しています。

2015年国連において、SDGs（持続可能な開発のための2030アジェンダ）が採択されました。これは、世界に共通する社会的課題です。東洋製罐グループは、日本を含む世界17カ国で約100社が事業を展開し、約1万9,000人の従業員が働いています。私たちグループは、SDGsのような社会的課題に対しても、会社や組織の壁を超え、グループ一丸となってその解決に取り組むことで、人類の幸福に貢献いたします。我々の掲げるメビウスマークは循環型社会を表しており、その約束の証となるものです。

東洋製罐グループホールディングス株式会社
代表取締役社長

中井隆夫

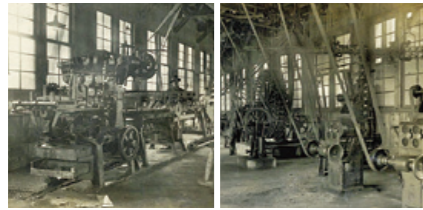
東洋製罐グループ 100周年のあゆみ



東洋製罐グループの歴史はそのまま、日本の食品製造・容器包装の歴史とも言えます。今後も変化を先取りして、東洋製罐グループが100年の歴史の中で培ってきた、食品製造に関するノウハウを生かしたソリューションを提供し、社会課題の解決に取り組んでまいります。

1917年 東洋製罐 東洋製罐創立

東洋製罐は空缶需要者の共同の製缶工場として、高崎達之助によって創立された、日本で最初の容器専門会社です。



1931年 東洋ガラス 鉛クリスタルガラス

当時、市場に出回っていなかった鉛クリスタルガラスの量産化に成功し、日本での草分けとなりました。



1949年 東洋興業 アイスクリーム用紙コップ

1949年のデビュー以来、アイスクリーム業界を牽引し、消費者に広く浸透しています。



1961年 東洋鋼板 ティンフリースチール

東洋鋼板が生み出したグローバルスタンダードの表面処理鋼板です。



1962年 東洋マテリアル・テクノロジー 微量要素肥料F・T・E

油薬製造技術を応用し、マンガン・ホウ素などの6要素を製品化した日本を代表する微量要素肥料です。土中で徐々に溶けて効きます。



1963年 日本クロージャ P.P. キャップ

キャップ下部のブリッジが破断することで開栓がわかる、いたずら防止機能を持つ金属キャップです。



1972年 東洋製罐 東洋興業 ラミコンボトル (マヨネーズボトル)

プラスチック樹脂をラミネートしたマヨネーズ向けの多層ボトルで、内容物の保存性に優れた軽い容器です。



1974年 東洋エアゾール工業 制汗消臭剤

粉末のサラサラ感と消臭・制汗効果、ガスによる瞬間的な冷却感を併せ持つスプレータイプの制汗剤です。



1974年 東洋ガラス シュリンクフィルムプレラベル

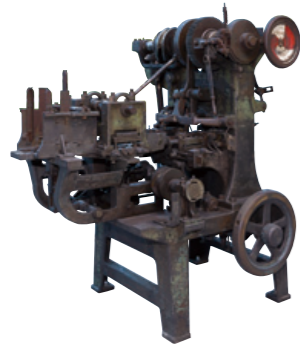
デザイン性が飛躍的にアップした、多色刷りのシュリンクフィルムプレラベルです。ワンウェイびんの時代を拓きました。



1910年代

1919年 東洋製罐 自動製缶設備による製缶(2号缶)開始

インバーテッドボディメーカーを米国から導入し、製缶を開始しました。



1920~1930年代

1935年 東洋鋼板 ブリキ

過去もこれからも人々の暮らしに寄り添い輝きつづける、悠久の時を刻む表面処理鋼板です。



1939年 東洋ガラス アンカーコップ

食品缶詰の代用容器として製造が開始され、キャップの形状がびんの口に錨を降ろしたようになっていることから名付けられました。



1940~1950年代

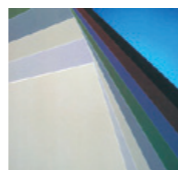
1952年 東洋エアゾール工業 殺虫剤

日本で初めてのスプレー式殺虫剤です。蚊やハエが飛び回る空間にさっとひと吹きするだけで、手も汚さずに速攻駆除できます。



1959年 東洋鋼板 ビニトップ

塩ビを亜鉛めっき鋼板に積層した樹脂化粧鋼板で、ビニール皮膜鋼板の商品化は世界初となりました。



1960年代

1966年 東洋マテリアル・テクノロジー TOMATEC COLOR

2種類以上の金属酸化物からなる無機顔料で、主に車の内装、住宅建材、家電、OA機器などのプラスチック着色材として使用されます。



1967年 東洋鋼板 シルバートップ

鉄に対し優れた防錆効果を持つ亜鉛をもとに、さらに耐食性を向上させた電気亜鉛めっき鋼板です。



1969年 東洋製罐 レトルトパウチ

レトルト殺菌が可能で保存性に優れており、東洋製罐が世界に先駆けて開発・実用化した常温流通ができる容器です。



1970年代

1976年 東洋ガラス スタック型タンブラー

スタックできるデザインにすることで、収納性が格段に向上しました。



1978年 東洋興業 ラミコンカップ

酸素バリア性のあるシート型容器です。常温で中長期保存が可能などの特長から多くの食品に採用され、食生活の変化にも対応しました。



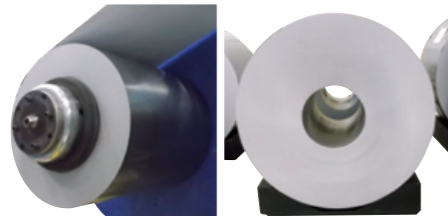
1984年 東洋興業
トーカン・バッグ (BIB)

3種5層のバリア機能を持つ内装容器と、それを収納し保護する外箱で構成され、ミネラルウォーター、調味液などに採用されました。



1985年 東洋鋼板
ラミネート鋼板 (ハイペット)

身近な飲料・食缶に、環境にやさしい安心の素材を提供したいとの思いから開発した、地球にやさしい新素材です。主にTULC(タルク)用原板として使われています。



1991年 東洋製罐
TULC (タルク)

TULC (Toyo Ultimate Can) は、材料、生産プロセスを根本から見直して、環境保全性を飛躍的に高めた缶です。



1992年 日本クロージャー
マキシ-Pキャップ

リングタブを引き、本体を破って開栓するイージーオープンタイプのキャップです。



1993年 東洋興業
減容ボトル

使用原料が少なく、容易に潰せて廃棄できるなど、環境配慮型のボトルで、洗浄剤などに使用されています。



1994年 東洋製罐
オキシガード (米飯用)

容器自体が酸素を吸収する機能を持つ、内容物の保存性に優れた容器です。



2000年 東洋ガラス
超軽量リターナブルびん

胴部にくびれを持つ設計で持ちやすく、また樹脂コーティングによってリターナブルが可能な超軽量びんです。



2001年 東洋製罐
オキシブロック (耐熱多層PETボトル)

PET樹脂と独自開発したバリア材による2種5層構造で、内容物を酸素から保護するため、品質保持に優れています。



2010年 東洋興業
ヒネルキャップ

オーバーキャップを締め込むと、ボトル口部を密封している中栓がオーバーキャップ内側天面に固定されて開栓するPush Topタイプのキャップです。



2012年 日本クロージャー
ストラップバンド

本体部分とバンド部分を連結し、「落ちない」機能を付加したプラスチックキャップです。



2013年 東洋エアゾール工業
染毛剤 (DUAL)

1つの缶に2種類の内容物をセパレート収納し、ワンプッシュで同時に吐出混合させることを可能にしたシステム採用製品です。



1980年代

1989年 日本クロージャー
スムーズヒンジ

プルリングで薄膜部を引き裂いて開封するタイプのキャップで、調味料などに使用されています。



1990年代

1997年 日本クロージャー
パウチ用キャップ&スパウト

近年、ゼリーや飲料、流動食などで利用が広がっているパウチ用のキャップとスパウトです。



1997年 日本クロージャー
NCフラップ

開栓時にバンドがびん口に残ることで、開栓したことを示すタイプのプラスチックキャップです。



1999年 東洋興業
エンボス紙コップ

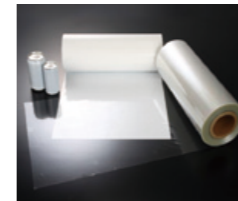
エンボス加工スリーブを巻き付けた二重の紙コップで、丼タイプは米飯を中心に、コップタイプはコンビニエンスストアやコーヒーショップなどで多用されています。



2000年代

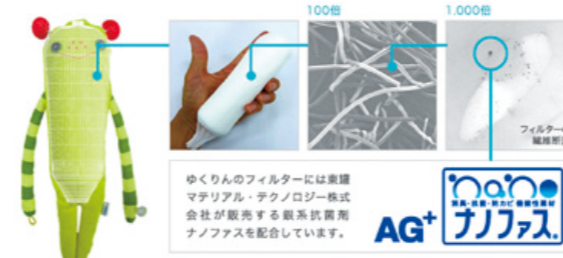
2007年 東洋鋼板
ファインキャストフィルム (光学用)

容器用機能フィルムの技術を採用し、テレビ、スマートフォンなどのフラットパネルディスプレイに採用されています。



2009年 東洋製罐グループホールディングス 東洋マテリアル・テクノロジー
n-FAS (ナノファス)

東洋製罐グループホールディングスと東洋マテリアル・テクノロジーが共同開発した「銀超微粒子均一分散」素材で、消臭・抗菌材料として多様な用途展開が期待されています。



2010年～

2014年 東洋ガラス
衣玻璃®

オリジナルデザインを一般びんに印刷し、1ケースから受注できる仕組みを導入することで、小ロットにも対応しています。



2014年 東洋製罐
OXYDEC (オキシデック)

バリア層内側に酸素吸収材層を配置したフィルムで、外部からの酸素の侵入を抑えるとともに、内部の酸素を吸収します。



東洋製罐グループのCSR経営

東洋製罐グループは、2016年に「東洋製罐グループの経営思想」を制定しました。
この経営思想をグループの共通指標として総合力を発揮し、次の100年を目指します。

東洋製罐グループの経営思想

Management Philosophy of Toyo Seikan Group

経営理念

常に新しい価値を創造し、持続可能な社会の実現を希求して、人類の幸福に貢献します。

<信条>

- 品格を重んじ、あらゆる事に日々公明正大に努めます。
- 一人ひとりの力を最大限に発揮し、自己の成長と共に社会の繁栄に努めます。

<ビジョン>

世界中の人に必要とされる斬新で革新的な技術と商品を提供するグループを目指します。



東洋製罐の根本方針

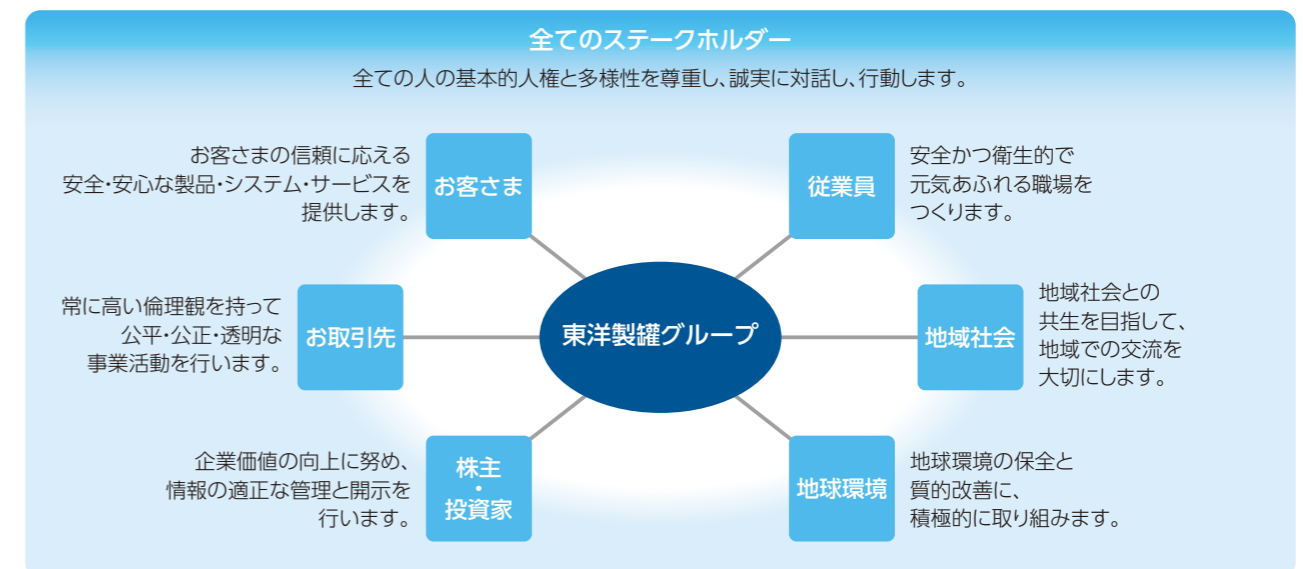
1933年(昭和8年)、創業者高崎達之助は『東洋製罐の使命』という小冊子の中で、創業の理念を根本方針として明文化し、株主、従業員、業界関係者に配布しました。以来、東洋製罐グループは、この根本方針のもとに私たちの使命を果たしてまいりました。

東洋製罐グループのCSRの原点がここにあります。

- 一、我社の目的は人類を幸福ならしむる結果を齎す所になければならぬ。
- 二、事業は営利が目的でなく利益は結果であり目的でない。
- 三、自己の受持により各自が奉仕の精神を尽し此の精神を団体的に発揮する事に努め、自己の繁栄をねがうと同様に関係業者の繁栄に努力しなければならぬ。

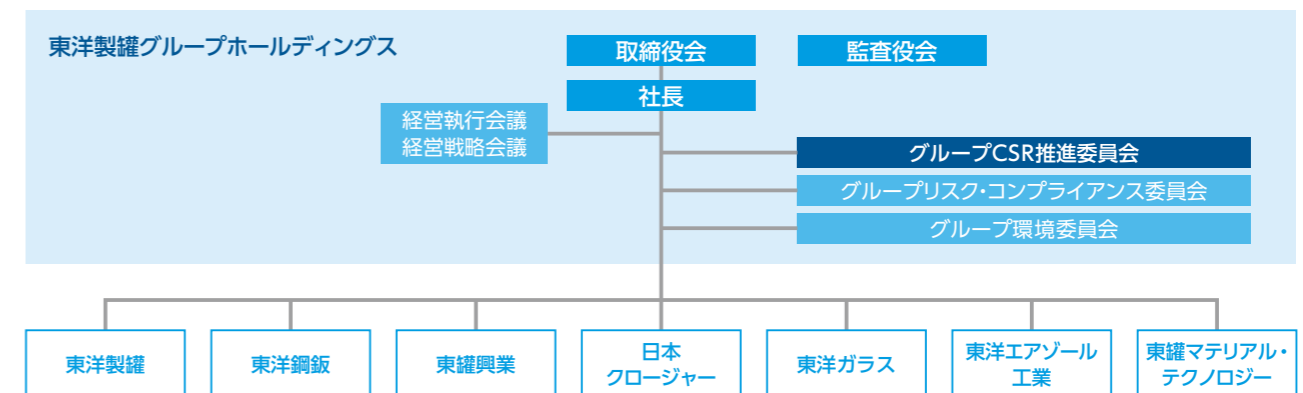
グループCSR基本方針

東洋製罐グループのCSRとは、「誠実で公正な事業活動を通して、人類の幸福繁栄に貢献しつづけること」です。
東洋製罐グループで働く一人ひとりが、CSR精神を理解し、全てのステークホルダーに対応します。



グループCSR推進体制

東洋製罐グループのCSR経営を推進するために、グループCSR推進委員会を設置しています。
同委員会は、東洋製罐グループホールディングス社長を委員長とし、同社の役員および各主力統括会社、統括会社社長を委員として構成します。



地球環境とのかかわり

地球環境の保全と質的改善に、積極的に取り組みます。

地球環境とのかかわり

環境方針および2050年に向けた長期目標

東洋製罐グループでは2002年に環境方針を制定し、事業活動を通して、地球環境の保全と質的改善に、積極的に取り組んできました。

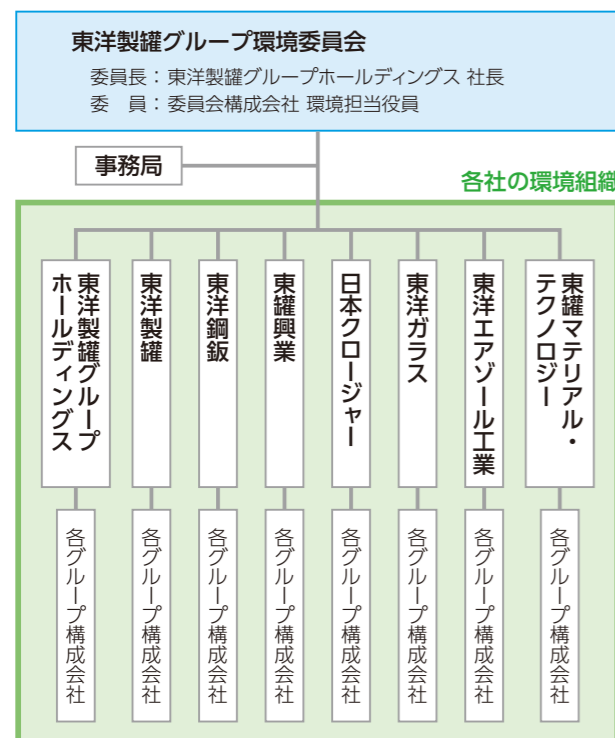
2015年には、2050年までを見据え、環境ビジョンの全面改定と長期目標の策定を行い、持続可能な社会の実現に向けた次のステップへ踏み出したところです。

グループ環境管理体制

東洋製罐グループでは、東洋製罐グループホールディングスの社長を委員長として東洋製罐グループ環境委員会を組織し、グループ全体の環境経営を推進しています。

グループ全体の環境経営は、年2回の環境委員会にて審議、決定し、年5回の事務局連絡会にて、進捗管理を行っています。グループ各社は、グループ環境委員会での決定事項に基づき、その内容を自社で展開し、各社の環境管理活動を推進しています。

東洋製罐グループの環境管理体制



東洋製罐グループ環境方針

【環境理念】

東洋製罐グループは地球環境の保全、さらには地球環境の質的改善が人類共通の最重要課題であることを強く認識し、企業活動のあらゆる面で環境に対するきめ細かい配慮を行いつつ、人類の生活文化の向上に貢献します。

【環境ビジョン】

東洋製罐グループは、固有技術の結集と世界の技術の活用により、私たちが提供する製品・サービス・システムのバリューチェーンにおいて、3つの側面から持続可能な社会の実現に貢献します。

- ① CO₂排出量を大幅に削減する「低炭素社会」
- ② 限りある資源を有効に活用する「資源循環社会」
- ③ 自然からの恵みを受け続けることができる「自然共生社会」

【環境行動指針】

1. 省エネルギーに努めるとともに、環境に配慮したエネルギーのベストミックスを目指します。
2. 省資源に努めるとともに、発生する排出物の削減、再資源化を推進します。
3. ライフサイクルにおいて、環境に配慮した製品開発、技術開発、製品製造を推進します。
4. 環境負荷の高い物質は使用削減を推進するとともに、代替物質への切り換えに努めます。
5. 環境汚染の予防を推進します。
6. ステークホルダーとの環境コミュニケーションを積極的に行い、相互理解に努めます。

【2050年度長期目標】

- 1) CO₂排出量を2050年度までに半減を目指します。*
- 2) 新規投入資源の使用量を最大限に削減し、再生材や再生可能材料への代替に努めます。
- 3) 調達、開発、製造、販売、サービス活動においてライフサイクルを考慮し、製品およびサービスを通じて、地球上の生物や人類が永続的に共生できる社会の実現に貢献します。

* 基準年は2013年度

中期環境目標「エコアクションプラン2022」とその進捗

東洋製罐グループでは、グループ環境ビジョンの実現に向け、具体的な中期目標であるエコアクションプランに基づき、グループ各社で目標達成に向けて取り組んでいます。

エコアクションプラン2022 中期環境目標の進捗状況

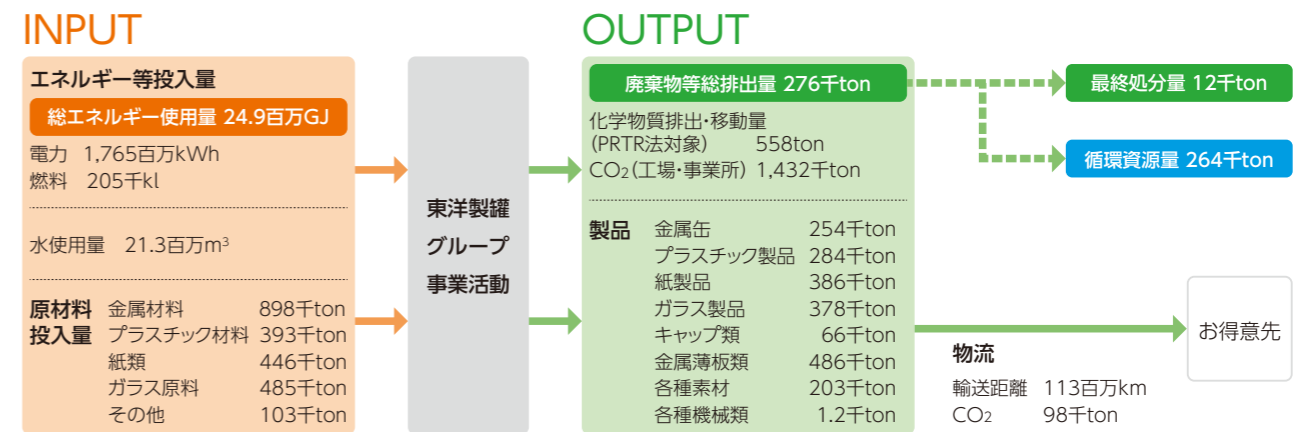
| 環境ビジョン | 2022年度 | 2016年度 | | |
|--------------------------------------|---|--|---|------|
| | 中期目標 | 単年度目標 | 実績（主な取り組み） | 評価 |
| ① CO ₂ 排出量を大幅に削減する「低炭素社会」 | CO ₂ 排出量を14%削減 | ● CO ₂ 排出量を5%削減 ● エネルギー消費量原単位を3%削減 | 【CO ₂ 排出量 9.1%削減】 【エネルギー消費量原単位 4.8%削減】 設備更新、製造ラインの統廃合、生産効率向上等の各種省エネルギーにつながる取り組みにより、CO ₂ 排出総量目標およびエネルギー原単位目標を達成しました。 | ★★★★ |
| ② 限りある資源を有効に活用する「資源循環社会」 | 物質投入量原単位を3%削減 購入資材のグリーン調達推進 | ● 物質投入量原単位を1%削減 | 【物質投入量原単位 0.8%削減】 容器をはじめとした製品の軽量化および工程での歩留まり向上（不良率低減）等の取り組みにより、原単位が削減されましたが、目標まで一歩届きませんでした。材料投入総重量に対する製品総重量の割合（材料の利用率）も2ポイント程度向上しており、資源の有効利用に努めています。 | ★★ |
| ③ 自然からの恵みを受け続けることができる「自然共生社会」 | 環境リスクの低減 環境汚染物質の低減 認証製品の購入を推進 外部コミュニケーション活動の推進 生物多様性の保全推進 | ● PRTR法対象化学物質の排出・移動量を5%削減 | 【PRTR法対象化学物質の排出・移動量 6.2%増加】 フィルム製品の印刷工程において、インキ・溶剤の脱トルエン化が大幅に進んだが、一方で、一部製品において、要求品質に対応するための工程管理上、廃棄めっき液の増加が大きく影響し、排出・移動量の総量が目標を超えてしまった。 | ★ |

評価指標：★★★★ 目標を達成できた ★★ 目標に対してわずかに未達成 ★ 取り組みが不十分 基準年：2013年度

事業活動にともなう環境負荷

東洋製罐グループでは全体の物質収支の把握に努め、環境負荷の低減に取り組んでいます。

東洋製罐グループ2016年度物質フロー【国内事業所】



地球環境とのかかわり

地球環境とのかかわり

地球環境とのかかわり

低炭素社会へ向けて

CO₂排出量削減の取り組み

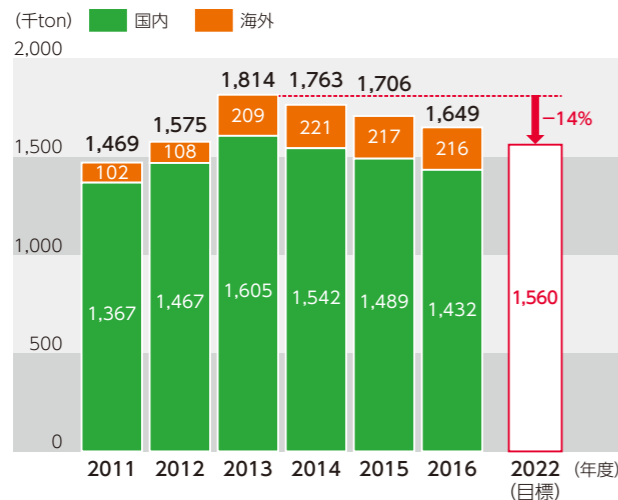
2016年度の東洋製罐グループの国内および海外の事業所のCO₂排出量は、前年度に比べて3.3%の削減となりました。削減量である57千tonのうち20千tonが電力原単位（電気事業者別排出係数）の変化分で、また、新たに1工場で、電力をクリーンエネルギーへの契約切り替えで、5.5千tonを削減することができました。差し引き残り32千tonが実質の削減となります。

例えば、空調用の冷温水発生器や冷凍機、高圧空気圧縮機、コジェネレーション設備、照明設備（LED化）などの設備の更新や、廃熱回収、排気循環、余剰エアの有効利用、補機設備の集約などの設備改善を実施した効果があげられます。

また、目標基準年の2013年度比でも-9%と大幅な削減が達成できています。引き続き、設備更新、製造ラインの統廃合、生産効率向上、歩留まり向上（不良率低減）等を含む、各種省エネルギーにつながる取り組みにより、削減に努めてまいります。

将来に向けた、さらなる削減には、再生可能エネルギーへの転換が必須となります。太陽光発電の導入に向けた検討を開始しています。

CO₂排出量の推移



資源循環社会へ向けて

廃棄物削減の取り組み

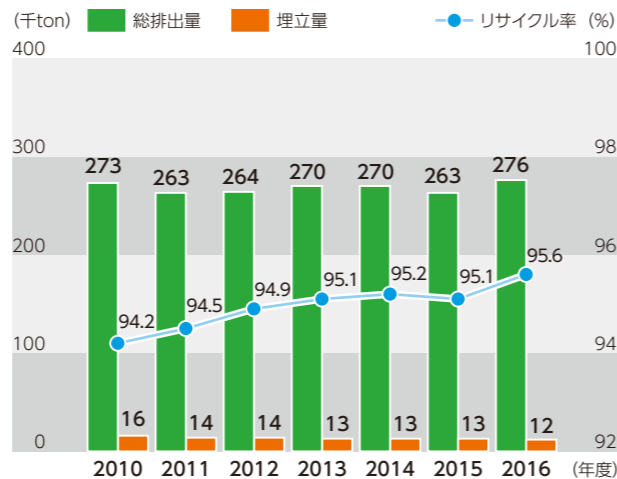
東洋製罐グループでは、限りある資源を有効に活用し、廃棄物の削減に努めるとともに、やむを得ず廃棄されてしまう排出物についても、再資源化を積極的に推進しています。

国内事業所から排出された2016年度の有価物を含めた廃棄物等の総排出量は、前年度に比べて製品生産量（製品総重量）の増加もあり5%増加しましたが、一方で、排出物の中で埋立処理（単純焼却を含む）された量は逆に5%減少となりました。特に、従来より再資源化が困難であった廃酸や汚泥の脱水率向上（含水率低減）の取り組み、工程の歩留まり向上による排出量削減等により、埋立廃棄物量を700ton削減しました。

排出物のリサイクル率（再資源化量／総排出量）は図に示すように年々増加し、2016年度は95.6%まで改善されています。さらなる埋立量の削減のため、分別の徹底や、廃棄物処理業者と協力しながらリサイクル手法の検討を推進しています。

また、グループ各拠点でのゼロエミッションの推進に取り組んでいます。2016年度は、国内全189拠点中、130拠点でゼロエミッション（再資源化率99%以上）を達成しました。

廃棄物等排出量の推移【国内事業所】



品質保証体制

長年にわたり蓄積した経験・技術・ノウハウを活用し、お客さまや社会のニーズに応える製品・システム・サービスの開発、提供に努めています。

品質保証体制

東洋製罐グループの品質保証体制は、グループ各社の事業活動において管理、運用しています。創業当時からあるべき姿として掲げてきた、「品質優良」「価格低廉」「迅速供給」の精神で、お客さまの信頼に応えるため、事業会社各社は、開発・調達・製造・販売・サービス全てのプロセスにおいて、常に時代に合った品質の確保・向上に取り組んでいます。



マネジメントシステムの構築

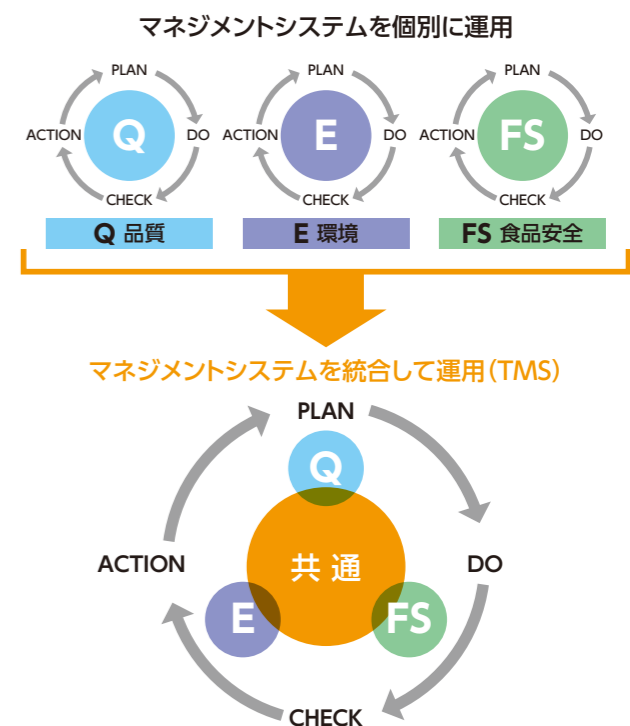
東洋製罐グループの事業会社各社では、品質マネジメントシステム（ISO9001）を構築し、品質の確保、向上に取り組んでいます。また、食品向け容器の製造販売を行う各社では、より安全・安心な製品の提供、フードチェーン全体におけるお客さま満足向上に向け、食品安全マネジメントシステム（FSSC22000）を順次構築しています。

技術開発の取り組み

東洋製罐グループでは、お客さまのさらなる満足と信頼を得るため、包装・容器市場の多様化するニーズに応える高付加価値の製品・技術・システム・サービスの研究・開発に努めています。さらに、長年にわたり蓄積した技術と先端技術を活用して、新たな市場の創造と新規事業の創出に取り組んでいます。

事業会社の取り組み

品質マネジメントシステム（ISO9001）、環境マネジメントシステム（ISO14001）、食品安全マネジメントシステム（FSSC22000）について、東洋製罐では2013年7月、東洋ガラスでは2015年1月に複数サイト運用で、複合審査での認証を取得しました。マネジメントシステムの統合により、重複業務を省き、個別最適から全体最適へと視野を広げ、マネジメントシステムと事業活動とが融合した「生きたシステム」で、お客さまに信頼されるものづくりを推進しています。



技術開発体制

東洋製罐グループでは、基礎的な研究開発を担う総合研究所を含む東洋製罐グループホールディングスの開発機能系各部門を中心に、東洋製罐テクニカル本部・東洋鋼板技術研究所・日本クロージャー開発本部・東洋興業技術開発本部をはじめとする各事業会社の開発部門が連携しながら技術開発を行っています。

品質保証体制

受賞実績

従業員とごまご

社会貢献活動

品質保証体制

品質保証体制

新規事業への取り組み

東洋製罐グループは、グループ各社が有する包装・容器分野のコア技術やその周辺技術、さらにはそれらを統合したソリューション力を基本に、各分野での最先端の

技術開発を推進し、ライフサイエンス・医療、電気電子・情報通信・エネルギー、環境などの分野において次世代のコアとなり得る新規事業の創出を目指しています。

事業展開を推進している新規事業

CANACCS®
(高効率自動細胞培養システム)

がんの再発・進行の防止が期待できる活性化自己リンパ球療法への適応を主眼に開発している浮遊系細胞の自動細胞培養システムです。



GenoGate®
(DNAチップでの食品衛生検査)

新開発の高性能DNAチップと、微生物制御技術を活用したまったく新しいDNA微生物検査システムです。



シリカグリン®
(屈折率分布型マイクロレンズ)

ガラス素材に関する知見とガラス組成設計技術を生かして開発した、径方向に屈折率分布を持たせた石英系マイクログリンレンズです。



受賞実績

従業員とともに

社会貢献活動

受賞実績

お客様の信頼に応える安全・安心な製品・システム・サービスを提供します。

2016年度 東洋製罐グループの受賞製品

東洋製罐グループ各社が開発した容器包装製品は、2016年度も国内外から高い評価を受けました。環境負荷の低減、機能性・使いやすさの向上、さらにはデザイ

ン性を追求した受賞製品が多くありました。今後も、グループシナジーを発揮し、お客様のニーズに合った容器を提案してまいります。

「透明酸素吸収性包材『OXYDEC』の開発」

第40回木下賞「研究開発部門賞」
日本パッケージングコンテスト テクニカル包装賞
東洋製罐グループホールディングス、東洋製罐(佐藤食品工業株式会社と共同受賞)

酸素を吸収する透明なハイバリアフィルム「OXYDEC」。切り餅の個包装内を長期間脱酸素状態にでき水分保持力も向上するため、おいさを維持できます。脱酸素剤が不要になり、廃棄物の削減も達成しました。



新香辛料多層ブローチューブ容器の開発

第40回木下賞「包装技術賞」
第28回デュボンパッケージング賞 デュボン賞(銀賞)
東洋製罐(ハウス食品グループ本社株式会社と、凸版印刷株式会社と共同受賞)

生活者の使用実態調査に基づいて2015年3月に行った容器の改良により、①中ぶたアルミシールのつまみやすさを向上、②チューブにフルカラー印刷を採用、③チューブの口元をなで肩にし、中身を最後まで絞り出しやすく改良、④キャップの開閉角度を変更、⑤キャップの軽量化などを実現。ユニバーサルデザインや環境負荷の軽減が評価され、今回の受賞につながりました。



フレアフレグランス 570mlボトル

日本パッケージングコンテスト テクニカル包装賞
東洋製罐(花王株式会社と共同受賞)

スパウトの固定方式を内嵌式へ変更することで、嵌合部の樹脂使用量を大幅に抑制。計量キャップとスパウトが接触しない設計のため、内嵌式スパウトのデメリットである「共回り」のリスクも解消しました。詰め替え時にパウチの注ぎ口が安定して差し込めるように、広めのスパウト設計にすることで、ごぼす心配もなくなりました。



再生PET樹脂100%使用耐熱PETボトル

平成28年度資源循環技術・システム表彰 経済産業大臣賞
日本パッケージングコンテスト テクニカル包装賞

東洋製罐、ペトリファインテクノロジー(味の素ゼネラルフーズ株式会社と共同受賞)
再生耐熱PET樹脂を100%使用したPETボトルが、国内PETボトルの資源循環に大きく貢献している点で高く評価されました。



お〜いお茶 玉露

ジャパンパッケージングコンペティション 一般飲料部門賞
東洋ガラス(株式会社伊藤園殿ほかと共同受賞)

ブランド力をより高める商品企画で、高級感と品格あるボトルは、特別にセレクトされたお茶であることを象徴しています。



「お店でお見せします」手組みスタックトレー

日本パッケージングコンテスト 輸送包装部門賞
日本トーカーパッケージ

店頭で商品が見えやすいように、ケース天面をさえぎらない設計にしました。またケース底面を角度を付けたはめ込み式にすることで、積み上げを簡単にしました。このような設計上の工夫や使用材料を削減したことが評価されました。



TOPICS

遺伝子解析キットの国内製造販売承認

東洋製罐が山口大学と開発した遺伝子解析キット「ジーンシリコンDNAチップキットUGT1A1」が2016年12月12日に薬事承認を取得しました。当社独自の素材・表面処理技術を活用することで開発された本キットは、イリノテカン塩酸塩水和物(抗がん剤)の投与が予定されている患者の副作用発現リスクに関連する遺伝子の解析を行うものです。遺伝子解析キットが薬事承認されたことを受け、2017年1月16日に山口大学で記者発表を行いました。当社にとって医療分野への本格的な進出となる本発表には、多数の報道機関が取材に訪れ、開発製品に高い関心が寄せられました。



記者発表の様子



山口大学 岡学長を中心に 隅田社長(左隣)、森賀常務(前列左端)

患者の薬剤による副作用発現リスクを解析



POINT

- ① マルチ測定
複数の遺伝子型を同時に測定
- ② 高い測定精度
- ③ 少ない検体量で測定が可能
- ④ 短時間(4時間)で測定が可能

品質保証体制

受賞実績

従業員とともに

社会貢献活動

受賞実績

各賞の説明

【木下賞】公益社団法人日本包装技術協会主催
包装に関する研究・開発や改善・合理化、新規分野の創出において顕著な業績をあげたものが表彰される。

【日本パッケージングコンテスト】公益社団法人日本包装技術協会主催
優れたパッケージとその技術を開発普及することを目的に開催される、包装分野における国内最大のコンテスト。

【デュボンパッケージング賞】米国デュボン社主催
包装業界全体にわたるデザイン、素材、技術、生産プロセス、サービスなどにおけるイノベーションに関して与えられる世界的に権威ある賞。

【資源循環技術・システム表彰】一般社団法人産業環境管理協会主催 経済産業省後援
廃棄物の発生抑制、再使用、再資源化の促進における優れた技術開発などを表彰することで、これらの事業・取り組みを奨励・普及し、新たなビジネスの創出をはかることを目的とする表彰制度。

【ジャパンパッケージングコンペティション】一般社団法人日本印刷産業連合会
市場で販売されているコマーシャルパッケージの優秀性を競う商品包装展。

【Pentawards(ペントアワード)】Pentawards主催
包装技術・パッケージデザインの普及を目的に開催される国際デザインコンペティション。

2016年度 東洋製罐グループの受賞製品

顆粒用ヒンジキャップ

日本パッケージングコンテスト 食品包装部門賞

日本クロージャー

プルリングをなくしつつ防湿性を維持できるように、上蓋の密閉性を向上させた顆粒用のヒンジキャップです。穴の位置と大きさを調整することで、使用時に適量を振り出すことができ、また使用後にキャップに中味が溜まらないようにしたことが評価されました。



家庭用LED照明器具の梱包箱

日本パッケージングコンテスト 電気・機器包装部門賞

日本トーカンパッケージ

従来は別パーツであった固定用部材を、ケースと一体化した設計にしました。これにより、内容物の保護性やケース強度を損なうことなく、省スペース性や省資源性を向上させたことが評価されました。



最も権威ある国際的パッケージデザインコンペティション 「Pentawards2016」

「BRONZE(銅賞)」

東洋製罐グループホールディングス

Ippin

折り込みの工夫で、封を切るとパッと開きそのまま食器として使用できるパウチです。電子レンジで温めたら開封して食卓に並べるだけ。開いた時に底部が安定する設計のため、食器に移し替える必要がなく、食後は洗う手間が省けコンパクトに廃棄できます。側面の折り込みが開いていく様は使う人に驚きを与え、インスタント食品の味気なさを解消してくれるでしょう。



Potato Chips

複数の人が一緒に食べることを想定した食べきりタイプのポテトチップスパッケージ。通常は1方向にしか開口されず、複数名ではシェアしにくく、皿を使うと洗物が増えてしまいます。その点、この半円状のパッケージは、開けると丸皿のようになり複数名がどの方向からでも食べられます。エンボス加工の様相が皿らしさを演出します。



TOPICS

「衣玻璃®」の開発 (東洋ガラス)

従来の印刷びんは特定の商品専用の印刷で、一定のロットが必要でした。そのため中小規模のお客さまやその窓口となる販売代理店にはハードルが高く、またデザイン検討に費用をかけられない場合もありました。「衣玻璃」は、これらの課題を解決するために、デザイン検討から期間限定の受注生産を導入することで、1ケース(24本)からの提供を実現しました。これにより、特別感のある印刷びんを手軽にご採用いただけるようになりました。また、このシステムは多方面よりご評価をいただき、日本はもとより、世界のパッケージングデザインの各賞を受賞いたしました。



ブランド名の「衣玻璃」は「意匠(衣装)をまとったガラスびん(玻璃)」という意味で、コンセプトは「よいものに、よい身だしなみを」。上質な中身や作り手のこだわりが詰まった商品には特別感のあるパッケージを提供したいという想いを込めました。今後も当社の技術やアイデアを盛り込みつつ、「衣玻璃」ブランドを通して生活文化の向上に役立つガラスびんを国内外へ向け発信してまいります。

従業員とともに

安全かつ衛生的で元気あふれる職場をつくります。

東洋製罐グループが、人類の幸福繁栄に貢献しつづけるための原動力は「人」です。私たちは常に従業員一人ひとりが、生き生きと誇りを持って働くことができる職場を目指しています。

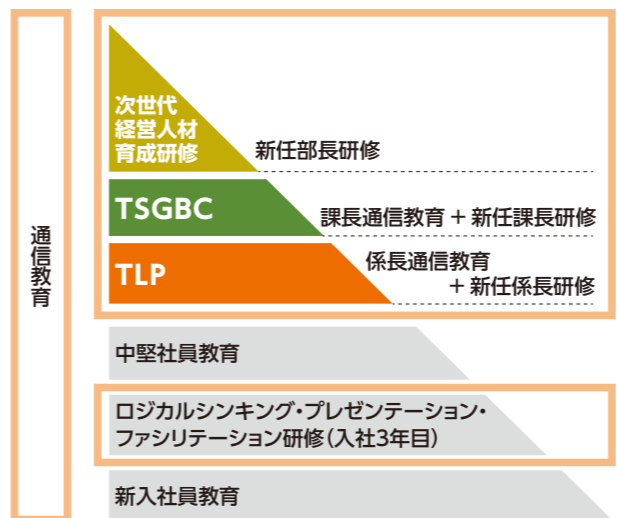
グループで連携した人材育成

東洋製罐グループは、人材育成に関するグループ内交流を推進しています。グループ共通の集合教育として、経営層を対象とした「次世代経営人材育成研修」、次世代リーダー育成を目的とした選抜メンバーによる「TSGBC(東洋製罐グループビジネスカレッジ)」、MOT(技術と経営の融合)をベースとした技術系若手リーダー対象の「TLP(テクニカル・リーダーズ・プログラム)」、論理的な思考法を習得するための「ロジカルシンキング研修」、新任部長・新任課長・新任係長を対象とした「階層別研修」を実施しています。また、社員の自己啓発のサポートとして、通信教育の修了者には受講料を全額補助する制度を設けています。2016年度はグループ会社全体で延べ3,405件の申し込みがありました。

このようなグループで連携した人材育成を進めることで、個社を越えての一体感醸成、人的ネットワーク構築などを促し、「人」の基盤づくりに積極的に取り組んでいます。

グループ共通教育体制図

■ 枠内はグループ合同実施



TLP最終報告会の発表風景

TLP受講者コメント

TLP研修では、実践演習を通して東洋製罐グループ各社の技術と人を知ることができ、日頃の業務から離れ、自由な発想で語り合い、刺激を受けました。また、新規事業を創出するための実践力を身に付け、事業化の方法を体得することができました。このつながりと学んだことを今後の開発業務に生かし、少しでもグループの発展に寄与できればと思います。

東洋ガラス株式会社
技術部電気機器グループ

伊藤 悠貴



グローバル人材マネジメント

東洋製罐グループの海外拠点はタイ・中国を中心に40カ所あり、153名の海外赴任者が活躍しています。

海外事業のさらなる展開に向け、グローバルに活躍できる人材育成のため、従業員の語学学習のサポートや海外従業員の日本での研修などを行っています。

海外拠点数 40カ所 / 海外赴任者数 153名

| 国内内訳 | 拠点数 | 赴任者数 | 国内内訳 | 拠点数 | 赴任者数 |
|--------|-----|------|-------|-----|------|
| タイ | 8 | 57 | マレーシア | 2 | 8 |
| 中国 | 14 | 33 | アメリカ | 3 | 5 |
| トルコ | 1 | 23 | ドイツ | 2 | 5 |
| インドネシア | 3 | 11 | その他 | 7 | 11 |

【対象】 東洋製罐 / 東洋鋼板 / 東洋興業 / 日本クロージャー / 東洋マテリアル・テクノロジー / 東洋エアソール工業

従業員とともに

品質保証体制

受賞実績

従業員とともに

社会貢献活動

ダイバーシティマネジメント

東洋製罐グループが、企業競争力を高め、永続的に発展するためには、誰もが自己の能力を十分に発揮し、自分自身が成長するとともにグループの成長に貢献していく必要があります。一人ひとりが互いの個性と能力を認め合い、多様な価値観や発想、気付きを生かし、成果に結び付ける組織を目指してダイバーシティ（多様性）マネジメントを推進します。女性活躍推進はその第一歩です。

2016-18年度グループ女性活躍推進活動方針

- 女性採用比率30%以上（当面、製造・現業系を除く）
- 積極的な情報公表姿勢を示す
- グループで活動を推進する

女性採用比率（新卒採用+中途採用）の状況

| | 2015年度 | 2016年度 |
|-----------------------|--------|--------|
| 全体 | 15% | 17% |
| 事務系 | 31% | 36% |
| 技術系 | 11% | 18% |
| 事務系+技術系 (目標値30%以上) | 20% | 27% |
| 製造・現業系 | 11% | 11% |

従業員の在籍状況（各期末現在）

| | 2015年度 | 2016年度 |
|-------------------|--------|--------|
| 従業員数 | 8,169名 | 7,539名 |
| 女性在籍者比率 (全体) | 12.2% | 12.0% |
| 事務系+技術系 | 18.8% | 18.1% |
| 女性管理職比率 (課長以上) | 2.1% | 2.5% |

【対象】 東洋製罐/東洋鋼板/東洋興業/日本クロージャー/東洋ガラス/東洋製罐グループホールディングス

安全・衛生活動

東洋製罐グループでは、全ての従業員が安全に安心して健康に働ける職場づくりを目指し、取り組んでいます。

安全活動では、各社の委員会組織を中心に、職場の安全パトロール、類似災害再発防止対応、KY（危険予知）活動などを盛り込んだ活動計画に基づき、継続的かつ積極的な活動を展開しています。衛生活動では、年間活動計画に基づき、生活習慣病や職業性疾病の予防、メンタルヘルス対策の推進などに取り組んでいます。

多様な働き方の実現

東洋製罐グループでは、育児・介護と仕事の両立を実現するために、支援制度の改定を進めています。

| | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 |
|----------|--------|--------|--------|
| 育児休暇取得者数 | 35名 | 36名 | 79名 |

【対象】 東洋製罐/東洋鋼板/東洋興業/日本クロージャー/東洋ガラス

事業会社の取り組み

男性の育児休業取得者が大幅増加

東洋製罐では、2016年5月より男女にかかわらず育児休業の一部を有給化し、育児休業の取得を推進しています。

これにより2016年度中に育児休業の取得を開始した社員は40名、うち男性は15名となりました（2015年度男性取得者実績は1名）。

制度初年度にあたり、出産予定のある社員に個別に案内するなど、きめ細かい対応を行いました。これからも、各職場において育児休業取得を後押しする雰囲気、環境をつくるという効果にもつなげてまいります。

社会貢献活動

地域社会との共生を目指して、地域での交流を大切にします。

東洋製罐グループでは、地域社会の一員として、地域の皆さまとの交流を行っています。各事業所それぞれの特色を生かして、身近なところからできる社会貢献活動を実施しています。

環境イベント出展・環境教育

【東洋ガラス】

東洋ガラスでは、2016年10月30日、横浜大さん橋で開催された横浜市資源リサイクル事業協同組合主催の「環境未来都市・環境絵日記展2016」に出展しました。当日は、「エコな容器ガラスびん」をテーマにガラスびんの3R（リデュース・リユース・リサイクル）を紹介しました。



【東洋ガラス】

東洋ガラスでは、地域の方々にガラスびんの製造・使用・リサイクルなどによる環境への影響をご理解いただき、ガラスびんの利用が促進されるよう工場見学の受け入れを10年以上にわたり実施してきました。見学者には多数の小中高校生や自治体関係者も含まれ、環境学習の場としても利用していただいています。



交通安全活動

【東洋製罐（静岡工場）】

東洋製罐静岡工場が所在する牧之原地区の企業に勤務している方々は、大多数が車通勤のため、従業員のみならず近隣住民の皆さまも、交通事故のリスクを抱えています。そのため企業のCSR活動の一環として、年6回、東洋製罐を含めた近隣企業6社が合同で交通安全立哨を実施しています。各社ともに「交通安全啓蒙ののぼり」を持参し、午前7時30分から8時10分まで合同で立哨。地域の交通安全、防犯、社会貢献につなげています。



イベント開催

【東洋鋼板】

東洋鋼板では、2016年7月23日に恒例となった「鉄心寮納涼祭」を開催しました。当日は地域の方々も多く訪れ、やぐらを囲んで「鋼板音頭」「下松笠戸島音頭」「下松市民憲章マーチ」をにぎやかに踊りました。また、寮生による出し物も大盛況で、みんなが楽しめる祭りとなりました。



品質保証体制

受賞実績

従業員とともに

社会貢献活動

TOPICS

滋賀工場夏祭り開催

東洋ガラス滋賀工場では、2016年8月に夏祭りを開催しました。当日は涼を求めて約190名の従業員とその家族が祭りに参加しました。定番の焼きそば、から揚げ、フランクフルトなどの食べ物から、子どもが楽しめる駄菓子釣り、スーパーボールすくい、くじ引きなど12種類の出し物を用意し、大いに賑わう催しとなりました。



社会貢献活動

災害復興支援

【東罐興業】

東罐興業では、2016年4月に発生した熊本地震において、紙容器の支援を求めている市町村に対して、支援物資として飲料用紙コップ、エンボス紙コップ、緊急用トイレ袋を提供し、この活動に対して市町村からお礼状をいただきました。その後も避難生活や救援活動などにお役立ただけできるようオリジナル応援紙コップを制作するとともに、社内での募金活動なども行いました。



支援物資の荷下ろし
オリジナル応援紙コップ

森林保全活動

【日本クロージャー（岡山工場）】

日本クロージャー岡山工場では、2016年10月29日に久米郡森林組合主催による、「おかやま共生の森・柵原・保育のつどい」に参加しました。小学生から高齢者まで幅広い年齢層が参加し、草刈りや木の伐採などを行いました。



予想以上の急斜面で大変な作業でしたが、予定していた部分の作業を無事終え、森林・林業に対する理解を深めることができました。



美化・清掃活動

【東罐マテリアル・テクノロジー】

東罐マテリアル・テクノロジー九州工場では、地域貢献の一環として「曲川清掃活動」に参加しています。この活動は、市内中心部を流れる曲川をきれいにしようとはじめられたもので、2016年秋の実施で20回目を迎えました。



当社も初期のころから参加し、近隣企業や団体、住民の皆さまと協力して美化活動に取り組んでいます。

【東洋エアゾール工業（三重工場）】

東洋エアゾール工業三重工場では、毎年5月に「ゴミ0（ゼロ）の日」を設定し、工場のある工業団地内で「ゴミゼロクリーン作戦」と名付けた清掃活動を実施しています。2016年度は5月27日に開催しました。暑い日でしたが、



三重工場の従業員が多数参加し、工業団地内の車道および歩道のゴミ拾いや除草作業を行いました。

【東洋エアゾール工業（川越工場・筑波工場）】

東洋エアゾール工業川越工場では、毎月、地域貢献の一環として工場周辺の道路の清掃を行っています。

また、筑波工場では龍ヶ崎市が毎年3月・6月・11月に実施している『わがまちクリーン大作戦』にボランティアとして参加し、工業団地内の空き缶などのゴミ回収活動を実施しています。



川越工場



筑波工場

コーポレート・ガバナンス

誠実で公正な事業を行うため、コーポレート・ガバナンスの充実に努めています。

コーポレート・ガバナンスの考え方

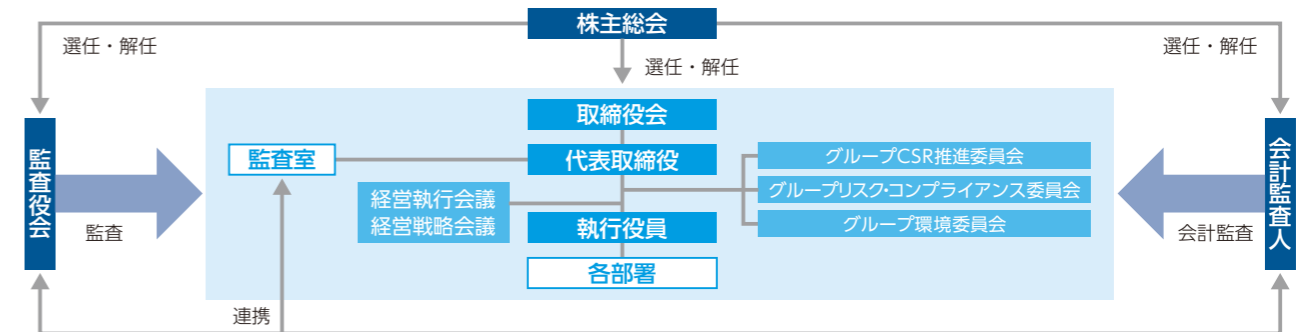
東洋製罐グループホールディングスは、創業以来、「包装容器を通して社会に貢献する」ことを企業理念に掲げ、企業価値の向上をはかってきました。当社は、経営環境の変化に柔軟に対応し、持続的な発展と進化を可能とするために、コーポレート・ガバナンスの充実が経営上の重要課題であると位置付け、継続的に取り組んでいます。

また、2015年6月1日に適用が開始されたコーポレート・ガバナンス・コードの内容を踏まえ、さらなるコーポレート・ガバナンスの強化をはかり、持続的な成長と企業価値の向上を目指してまいります。

企業統治の体制

東洋製罐グループホールディングスの取締役会は取締役11名で構成されています。そのうち独立性を有する社外取締役は4名であり、取締役会における社外取締役の人数は3分の1を超えています。取締役会は原則として月1回開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、経営に関する重要事項などを決定しています。また、取締役の経営責任を明確にし、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を機動的に構築するために、取締役の任期は1年としています。監査役会は監査役5名で構成されており、そのうち独立性を有する社外監査役は3名です。監査役会は、原則として月1回および必要に応じて随時開催しています。社外取締役3名および社外監査役3名を東京証券取引所に対し、独立役員として届け出しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



これら社外取締役および社外監査役による、取締役会における積極的な意見の表明と、それにとまなう活発な議論は取締役会の活性化につながっています。独立した客観的な立場にある社外取締役や社外監査役による経営陣のモニタリングと、株主による毎年の取締役選任議案の審議を通して、経営体制に対する監視機能を確保しています。

経営会議による戦略立案と業務執行

東洋製罐グループホールディングスでは、執行役員制度を導入することにより、経営の効率性・機動性を確保するとともに、経営の意思決定・監督機能と業務執行機能の明確化をはかっています。経営の基本方針および諸施策を適切かつ迅速に確立し、経営活動を強力に推進するために、常勤取締役、機能統轄責任者、専務執行役員および常務執行役員により構成される「経営戦略会議」を月1回開催し、常勤取締役、機能統轄責任者、専務執行役員、主要なグループ会社社長により構成される「経営執行会議」を月2回開催しています。

内部監査

法令を遵守した企業活動の徹底をはかり、経営の効率性を高めるために、社長直轄の内部監査部門として監査室を設置しています。東洋製罐グループ全社を対象に、各社の内部管理体制の整備および運用状況を定期的に監査することで内部統制機能の向上をはかっています。

品質保証体制

受賞実績

従業員7,742名

社会貢献活動

コーポレート・ガバナンス

の充実に向けた社外取締役の取り組み

コンプライアンス

リスクマネジメント

役員一覧

財務・決算

コーポレート・ガバナンスの充実に向けた 社外取締役の取り組み



社外取締役
片山 傳生

取締役会について

フランクで話しやすい雰囲気です。議長は、皆の意見を十分に聞くよう心がけていて、異論がない場合にも意見を求めるような積極性から、社外の意見も取り入れる姿勢が見て取れます。取締役会は決裁する場ですが、議論が十分でないときは、議長が「もう一度議論しよう」と柔軟に運営をリードしていることも印象的です。

事業運営に対する議論は、これまで計画の方向性が定まった段階で行っていたのですが、現在は計画立案段階からできるように変わってきているので、大きな流れを理解のうえ、社外の視点を反映させていきたいと考えています。

フォロー体制について

就任直後から、海外の工場を含め多くの工場を視察させていただきました。事業に対する理解を深めるうえで非常に有益な機会でした。3現主義と言われますが、現場に行き自分の眼で見て、そこで働く方々と話をすることで、実感をもって会社を理解することができると思います。

取締役会に関する情報提供方法も改善されてきていて、取締役会開催前に資料を閲覧できる仕組みができたので、事前準備をして取締役会に臨むことができている。

心がけていること

社外取締役として大切なことは、社外の眼をもって、ステークホルダーの利益が損なわれないように意見する

ことです。私は工学にかかわる者として「技術面から大きな流れを捉えて企業の動きを見て」、大学教授として「人材の育成と交流」の面で貢献することを心がけています。

現在、グループ成長戦略として、既存事業の海外展開をはかると同時に、新たな柱となる事業の育成が求められています。近年「Stolle」や「富士テクニカ宮津」が東洋製罐グループに参加したことで、エンジニアリング事業や金型事業は新しい局面に入ったと理解しています。一般的に自動車業界や電子部品業界は、包装容器事業の得意先である飲料・食品業界に比べてボラタリティーが高いと言われています。上昇局面には資源を投入して大きく成長し、下降局面では安定した事業が行えるような事業ポートフォリオを構成できるように、大学を通して得た技術面の知見を取締役会での議論につなげていきます。

また人材育成や交流については、学会で自ら情報を発信する者に、情報も人的ネットワークも集まってくるので、私は研究開発部門が積極的に対外発表できるようにサポートしていきたいと思っています。

大学との交流も重要です。既に一部の分野では実施していますが、大学の研究室に企業人が入り、他企業の人たちと一緒に研究するようになると人脈が広がります。企業が連携して新たな事業を展開する際に、大学の研究室で培った人脈を生かす事例も増えていますので、東洋製罐グループでも大学との交流が進められるようにアドバイスしていきます。



社外取締役
浅妻 敬

取締役会について

自由に意見を述べやすい開かれた雰囲気があり、私も2016年の就任直後から頻りに発言させていただいています。法的な問題の方針に異論がなく黙っていると、「浅妻取締役、何かご意見ありませんか」と議長から敢えて発言を求められることもあります。取締役会として、独善に陥らないように、外部からどのように見えているのかを絶えず意識していることの現れであると感じています。

フォロー体制について

2016年の就任直後から、海外を含め多くの工場を視察させていただきました。これは、当社グループの事業に対する理解を深めるうえで、非常に有益な機会でした。社外取締役の重要な役割の1つは、「外部」の立場から意見することだと理解していますので、社内役員と同じレベルの知識・経験は期待されていないとは思いますが、それでも、当社グループの事業に対する十分な理解がなくては、株主の皆さまの役に立つような機能は発揮できません。その意味で、就任間もない私にとって、工場視察はとて有意義な経験となりました。

心がけていること

社外取締役に期待される最重要の役割は、社内取締役による業務執行を外部者の立場から監視し、それによって株主全体の利益が損なわれないように努めることだと理解しています。この観点から、私は以下の2点を心がけています。

1点目は、「株主の皆さまの視点から考える」ことです。会社を理解すればするほど、「企業の論理」に強く影響されがちですが、それでは社外取締役に期待される役割は十分に果たせません。一部の株主からの要求に応えることは、必ずしも株主全体の利益につながりませんが、他方で、顧客、取引先、地域社会、従業員といった株主以外のステークホルダーの観点からの考慮は、最終的に株主全体の利益につながる文脈でなされるべきだと考えています。この判断は極めて微妙であり、まさにこのような判断の適正性、妥当性の担保にこそ、私たちのような社外取締役の存在意義があると考えています。

2点目は、取締役会としての意思決定に関して、第三者から見ても十分に納得のいく「合理的な検討プロセスを確保する」ことです。取締役会に上程される議題は、社内での熟慮を経たものばかりだとは思いますが、そのプロセスを社外の立場からきちんと検証することは、社外取締役としての重要な役割の1つであると理解しています。例えば、「前提として、どのような情報収集や調査を行ったのか」「そのうえでどのような選択肢を考えたのか」「それぞれの選択肢についてどのような評価を行ったのか」「専門家の意見は確認したのか」などの点は、取締役会として重要な意思決定を行う際に、常に意識しています。また、そのようなプロセス検証の際に、これまで弁護士として国内外の大規模企業間取引に数多く関与してきた経験を生かしていきたいと考えています。

コンプライアンス

東洋製罐グループは、社会の信頼に応えるために、品格を重んじ、あらゆることに日々公明正大に努めます。

常に謙虚に、正しい行動を

従業員等が「常に謙虚に、正しい行動」を取るために、東洋製罐グループ企業行動憲章と各社の企業行動規準を定めています。また、自身の行動を見直すためのセルフチェックカードを配付しています。

グループリスク・コンプライアンス推進体制

グループ全体のコンプライアンスを推進するため、以下の体制を構築しています。

グループリスク・コンプライアンス委員会

- 委員長：東洋製罐グループホールディングス 代表取締役社長
- 委員：東洋製罐グループホールディングスの取締役・執行役員および主要なグループ会社7社の代表取締役社長
- 事務局：総務部・法務部

グループリスク・コンプライアンス分科会

相談窓口

東洋製罐グループでは、コンプライアンス違反行為に関する通報や相談の社外相談窓口として、「企業倫理ホットライン」と「セクハラ・人間関係ホットライン」を設置しているほか、社内にも相談窓口を設置しています。また、通報や相談に対する適正な処理の仕組みや相談者の保護について定めるとともに、セルフチェックカード等により社外相談窓口を啓発しています。

グループコンプライアンス研修会

2016年10月11日、弁護士を講師に招いてグループコンプライアンス研修会を開催し、グループ各社の役員が出席しました。



テーマ：グループのガバナンス・リスク管理について
— 最近の企業不祥事に学ぶ —

2016年度の主な活動実績

グループコンプライアンス推進月間活動

毎年10月をグループコンプライアンス推進月間と定め、共通活動テーマに沿ってさまざまなコンプライアンス推進活動を行いました。

- 共通活動テーマ
 - ① 人権と個性の尊重 (安全かつ健全な職場づくり)
 - ② 情報の適正な管理と開示
- グループコンプライアンス研修会の開催
- 倫理及び法令遵守の誓約書の提出

グループ新任役員法務研修会の開催

グローバルコンプライアンスの推進

反社会的勢力の排除に向けた対応

2017年度の主な活動計画

下請代金支払遅延等防止法の遵守

管理職に対する労働法理解の徹底・遵守 (労働時間管理等)

コンプライアンス教育・研修

グループコンプライアンス推進月間活動

コンプライアンスに関する情報の収集・発信

リスクマネジメント

東洋製罐グループは、継続的な事業活動の実現、経営基盤の安定化のため、リスクマネジメントに取り組んでいます。

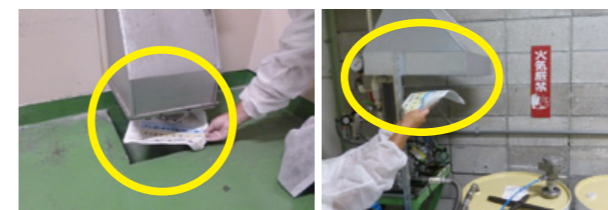
事業会社の取り組み

東洋製罐および日本クロージャーのリスクマネジメント

東洋製罐および日本クロージャーでは保険会社の協力を得て、工場のリスク調査を行っています。保険会社の外部からの視点も活用し、取り組むべき事項の優先順位付けを行い、リスク低減に努めています。2016年度は、東洋製罐では石岡工場と大阪工場、日本クロージャーでは全工場(石岡工場、平塚工場、小牧工場、岡山工場)で調査を行い、火災・爆発および自然災害リスクについての見える化対策を実施しました。今後も、好事例の横展開も含め、他事業所での展開を予定しています。



東洋製罐 リスク調査報告書



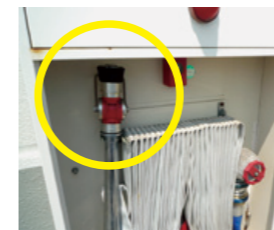
東洋製罐石岡工場 局所排気装置の動作確認調査風景



日本クロージャー岡山工場 リスク調査報告書



日本クロージャー石岡工場 リスク調査報告書



岡山工場での好取り組み事例。屋外の消火栓設備に噴霧切り替え式ノズルを採用することで、安全かつ有効に火元に注水できると期待されています。



石岡工場での好取り組み事例。梯子にヘルメットとチェーンを備え付けることで、墜落リスクや高所作業場所への不要なアクセスの制限につながります。

東洋ガラスのリスクマネジメント

東洋ガラスでは工場のフードディフェンスの一環として、一部エリアへの入室の際に指静脈認証による本人確認を実施しています。これにより、エリアへの部外者の侵入を防ぎ、より安全・安心な製品をお客さまにお届けいたします。



東洋ガラス 静脈認証

優良事業所として滋賀県知事表彰を受賞

東洋ガラス滋賀工場は、滋賀県防火保安協会連合会主催の『滋賀県防火意識高揚推進大会』において、防災訓練の実施状況や消防設備の維持管理などが評価され、優良事業所として滋賀県知事表彰を受賞しました。今後も防火意識の向上と防火推進活動に、より一層取り組んでまいります。



滋賀県知事表彰受賞の様子

東洋興業のリスクマネジメント

東洋興業では社外相談窓口だけでなく、社内相談窓口があることを周知するためにオリジナルポスターを作成し、各事業所に掲示しています。相談窓口対応者を各事業所の総務グループリーダーとし、「職場の人間関係の悩み」から「コンプライアンス推進活動における意見」まで幅広く相談を受け付け、職場内の問題に迅速に対応しています。また相談窓口対応者は、専門の研修を受けており、相談を受ける体制を整えています。



社内相談窓口オリジナルポスター

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの充実に向けた社外取締役の取り組み

コーポレート・ガバナンス

リスクマネジメント

役員一覧

財務・決算

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの充実に向けた社外取締役の取り組み

コーポレート・ガバナンス

リスクマネジメント

役員一覧

財務・決算

役員一覧

取締役

中井 隆夫
代表取締役社長

長年にわたる当社グループの経営者としての豊富な経験と幅広い知識・見識を有し、当社のグループ経営の推進に適任であると判断され取締役に選任されました。

藤井 厚雄
代表取締役副社長

長年にわたる経営企画・経営管理部門で培った豊富な経験と幅広い知識・見識を有し、当社の経営者として適任であると判断され取締役に選任されました。

毎田 知正
取締役専務執行役員

長年にわたる技術開発部門で培った豊富な経験と幅広い知識・見識を有し、当社の経営者として適任であると判断され取締役に選任されました。

五味 稔康
取締役専務執行役員

長年にわたる人事・労務を主とした経営管理部門で培った豊富な経験と幅広い知識・見識を有し、当社の経営者として適任であると判断され取締役に選任されました。

後分 雅史
取締役専務執行役員

長年にわたる経理・財務・情報システム部門で培った豊富な経験と幅広い知識・見識を有し、当社の経営者として適任であると判断され取締役に選任されました。

副島 正和
取締役執行役員

長年にわたる経理・経営企画部門で培った豊富な経験と幅広い知識・見識を有し、当社の経営者として適任であると判断され取締役に選任されました。

室橋 和夫
取締役執行役員

長年にわたる人事・労務部門で培った豊富な経験と幅広い知識・見識を有し、当社の経営者として適任であると判断され取締役に選任されました。

荒井 瑞夫
取締役

公認会計士としての専門的な知識・見識、豊富な経験と幅広い知識・見識を有し、当社の経営者として適任であると判断され社外取締役に選任されました。

小林 秀明
取締役

長年にわたる外交官としての豊富な経験と幅広い知識・見識を有し、当社の経営者として適任であると判断され社外取締役に選任されました。

片山 傳生
取締役

大学教授としての専門的な知識・見識、豊富な経験と幅広い知識・見識を有し、当社の経営者として適任であると判断され社外取締役に選任されました。

浅妻 敬
取締役

弁護士としての専門的な知識・見識、豊富な経験と幅広い知識・見識を有し、当社の経営者として適任であると判断され社外取締役に選任されました。

監査役

大川 邦夫
常勤監査役

長年にわたる経理部門で培った経験と当社グループの監査役としての豊富な知識・見識を有しており、当社の監査役として適任であると判断され監査役に選任されました。

上杉 俊隆
常勤監査役

長年にわたる内部監査部門で培った豊富な経験と幅広い知識・見識を有し、当社の監査役として適任であると判断され監査役に選任されました。

小西 龍作
監査役

経営者としての豊富な経験と幅広い知識・見識を有しており、当社の監査役として適任であると判断され社外監査役に選任されました。

波光 史成
監査役

公認会計士・税理士としての専門的な知識・見識、豊富な経験と幅広い知識・見識を有し、当社の監査役として適任であると判断され社外監査役に選任されました。

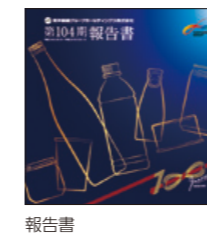
鈴木 博
監査役

国税庁・東京国税局における長年の専門的な知識・見識、豊富な経験と幅広い知識・見識を有し、当社の監査役として適任であると判断され社外監査役に選任されました。

財務・決算

2016年度の主な活動内容

| 対象者 | IR 活動 |
|--------------------------|---|
| マスコミ アナリスト 国内機関投資家 | <ul style="list-style-type: none"> ● 決算説明会(中間・期末) ● 個別IRミーティング(24回) ● 証券会社主催カンファレンス参加 |
| 海外機関投資家 | <ul style="list-style-type: none"> ● 個別IRミーティング(14回) ● 証券会社主催カンファレンス参加 ● インバスターズガイドの発行 |
| 株主 | ● 報告書の発行(中間・期末) |



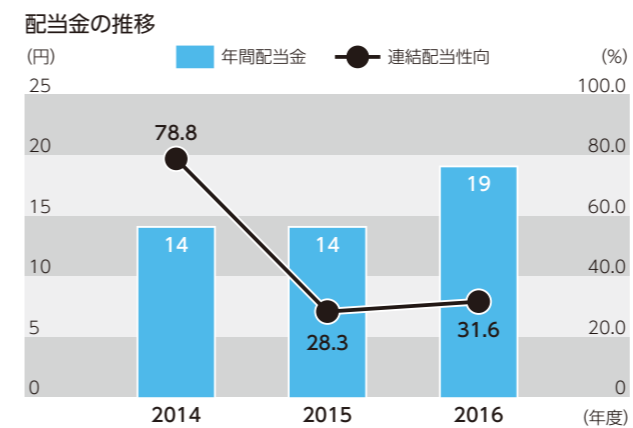
報告書



インバスターズガイド

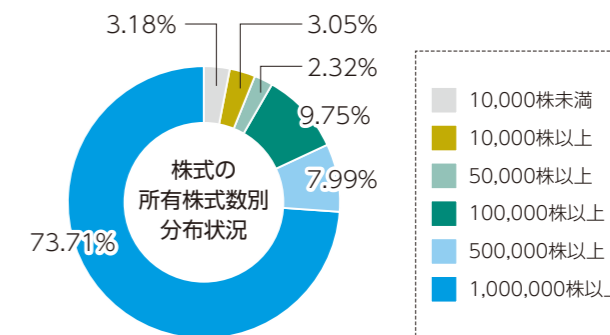
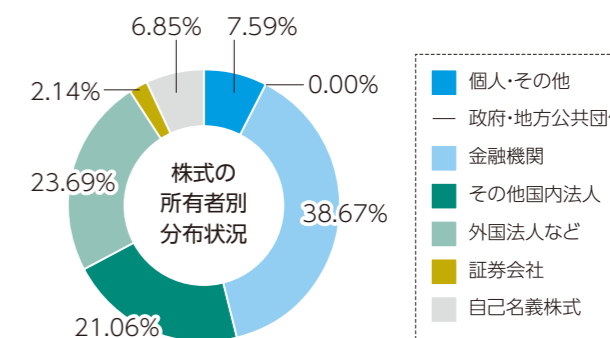
配当金の推移

2016年度の配当金については、1株につき普通配当14円とし、これに創立100周年記念配当5円を加え、1株につき19円とさせていただきます。



株式の状況 (2017年3月31日現在)

| | |
|----------|------------------------------|
| 発行可能株式総数 | 450,000,000株 |
| 発行済株式総数 | 217,775,067株 |
| 単元株式数 | 100株 |
| 株主数 | 5,918名 |
| 上場取引所 | 東京証券取引所市場第一部 (証券コード 5901) |



コーポレート・ガバナンス

の充実に向けた社外取締役の取り組み

コーポレート・ガバナンス

コンプライアンス

リスクマネジメント

役員一覧

財務・決算

コーポレート・ガバナンス

の充実に向けた社外取締役の取り組み

コーポレート・ガバナンス

コンプライアンス

リスクマネジメント

役員一覧

財務・決算

東洋製罐グループ関係会社 100社 (国内: 47社 海外: 53社)

2017年6月30日現在 ●: 連結子会社

- 東洋製罐グループホールディングス株式会社**
持株会社

- 東洋製罐株式会社**
各種空缶・容器・充填設備の製造・販売

- 本州製罐株式会社**
18リットル缶、缶詰用空缶、美術缶の製造・販売

- 日本ナショナル製罐株式会社**
飲料用空缶の製造・販売

- 琉球製罐株式会社**
缶詰用空缶、プラスチックボトルの製造・販売

- ペットリファインテクノロジー株式会社**
PETボトルリサイクル事業

- 東洋製版株式会社**
金属およびフィルム印刷用版の製造・販売

- 福岡パッキング株式会社**
金属・ガラスおよびプラスチック容器用シーリング剤(密封剤)の製造・販売

- ティーエムパック株式会社**
飲料用PETボトル製品の製造・販売

- 東洋製罐グループエンジニアリング株式会社**
製缶機械、充填機械、包装機械、食品加工機械の製造・販売および技術サービス等

- 東洋メビウス株式会社**
貨物自動車運送業、倉庫業ほか

- 株式会社ジャパンボルトドウォーター**
宅配水用容器の製造・販売

- 株式会社T&Tエナテクノ**
リチウムイオン二次電池を主とする電池用外装材の製造・販売

- Bangkok Can Manufacturing Co., Ltd. (タイ)**
2ピース缶・溶接缶・アルミ蓋の製造・販売

- Next Can Innovation Co., Ltd. (タイ)**
2ピース缶の製造・販売

- Toyo Seikan (Thailand) Co., Ltd. (タイ)**
プラスチック製品の製造・販売、飲料用PETボトルの製造・販売および受託充填事業、技術支援センター、グループ会社へのアドミニ業務

- Kanagata (Thailand) Co., Ltd. (タイ)**
プラスチック製品用金型の製造・販売

- Global Eco-can Stock (Thailand) Co., Ltd. (タイ)**
容器用樹脂被覆アルミ材の製造・販売

- Toyo Mebius Logistics (Thailand) Co., Ltd. (タイ)**
貨物自動車運送業

- 広州東罐商貿有限公司 (中国)**
缶、プラスチック容器の販売

- 東洋飲料(常熟)有限公司 (中国)**
飲料用PETボトルの製造・販売および受託充填事業

- Yangon Can Manufacturing Co., Ltd. (ミャンマー)**
飲料用空缶の製造・販売

- Asia Packaging Industries (Vietnam) Co., Ltd. (ベトナム)**
2ピース缶・アルミ蓋の製造・販売

- Asia Packaging Industries (Vietnam) Trading Co., Ltd. (ベトナム)**
2ピース缶・アルミ蓋の販売

- 東洋鋼板株式会社**
ぶりき、薄板および各種表面処理鋼板並びに各種機能材料等の製造・販売

- 株式会社富士テクニカ宮津**
自動車用プレス金型および各種金型の製造・販売等

- 鋼板商事株式会社**
鋼板類とその加工品の販売等

- 鋼板工業株式会社**
帯鋼、結束機等機械器具、硬質合金等の製造・販売および磁気ディスク用アルミ基板の製造

- KYテクノロジー株式会社**
建材製品および物流器材の製造・販売

- 東洋パックス株式会社**
梱包資材の製造・販売、截断、検定、包装作業請負

- 共同海運株式会社**
内航運送業、貨物利用運送業、通関業、代理店業

- 下松運輸株式会社**
貨物自動車運送業、港湾運送業、通運業および倉庫業

- 東洋パートナー株式会社**
健保会館等福利厚生業務の請負

- TOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN. BHD. (マレーシア)**
磁気ディスク用アルミ基板の製造・販売

- 宮津マレーシア社 (マレーシア)**
自動車用プレス金型および自動車用部品の製造・販売

- 上海東洋鋼板商貿有限公司 (中国)**
鋼板関連商品、硬質材料、自動結束機等の販売および付帯サービスの提供

- 湖南東洋利徳材料科技有限公司 (中国)**
鋼板、アルミ、銅およびステンレス等の基材に表面処理を施した製品の研究、開発、製造および販売並びにこれらに付帯する一切の業務

- 江蘇東洋鋼板新材料科技有限公司 (中国)**
缶用ラミネート鋼板の製造

- 富士瑞鵲技研(蕪湖)有限公司 (中国)**
自動車用プレス金型の設計

- 烟台富士宮津商貿有限公司 (中国)**
自動車用プレス金型関連の営業活動

- 烟台富士沃森技術有限公司 (中国)**
自動車用プレス金型の設計

- 烟台三井富士汽車模具有限公司 (中国)**
自動車用プレス金型および自動車用部品の製造・販売

- 韓国鋼板工業株式会社 (韓国)**
硬質合金、機械器具等の販売

- Tosyalı Toyo Steel CO. INC. (トルコ)**
冷延鋼板および表面処理鋼板の製造・販売 (表面処理鋼板製造工場の建設を推進中)

- 富士テクニカ宮津アメリカ社 (アメリカ)**
自動車用プレス金型関連の営業活動

- TOYO KOHAN AMERICA Inc. (アメリカ)**
持株会社

- POLYTECH AMERICA, LLC (アメリカ)**
食缶用ラミネート鋼板の研究開発

- フジテクニカインドネシア社 (インドネシア)**
自動車用プレス金型および自動車用部品の製造・販売

- 東罐興業株式会社**
紙容器製品・樹脂容器製品の製造・販売

- 日本トーカーパッケージ株式会社**
段ボール製品・紙器製品の製造・販売

- 東洋ユニコン株式会社**
ダンブラ製品の製造・販売

- 東罐興産株式会社**
農業用フィルムの製造・販売

- 東罐高山株式会社**
紙容器製品、紙蓋製品の製造・販売

- 東罐ロジテック株式会社**
貨物自動車運送業、倉庫業

- サンナップ株式会社**
紙コップ・紙皿、紙ナプキンの販売

- 株式会社尚山堂**
紙器・台紙、紙スプーンの製造・販売

- 株式会社タケウチハイパック**
段ボール製品・紙器製品の製造・販売

- 千里運輸株式会社**
貨物自動車運送業

- 志田紙工株式会社**
プラスチック製品の製造・販売

- 東罐(常熟)高科技容器有限公司 (中国)**
プラスチック製品の製造・販売

- TAIYO PLASTIC CORPORATION OF THE PHILIPPINES (フィリピン)**
プラスチック製品の製造・販売

- T.K.G. CORPORATION (フィリピン)**
土地賃貸業

- 台湾東罐股份有限公司 (台湾)**
飲料用紙コップの製造・販売

- 日本クロージャー株式会社**
メタルキャップ・プラスチックキャップの製造・販売

- 新三協物流株式会社**
貨物自動車運送業

- Crown Seal Public Co., Ltd. (タイ)**
メタルキャップ・プラスチックキャップ・王冠の製造・販売

- 日冠瓶蓋(常熟)有限公司 (中国)**
メタルキャップの販売

- NCC Europe GmbH (ドイツ)**
メタルキャップの販売

- PT. Indonesia Caps and Closures (インドネシア)**
プラスチックキャップの製造・販売

- NCC Crowns Private Ltd. (インド)**
メタルキャップの製造・販売

- 東洋ガラス株式会社**
ガラスびんの製造・販売

- 東洋佐々木ガラス株式会社**
ガラス製ハウスウエア製品の製造・販売

- 東洋ガラス機械株式会社**
ガラス・プラスチック容器用金型、機械の製造・販売

- 東洋ガラス物流株式会社**
貨物利用運送業、各種構内作業請負

- 東北珪砂株式会社**
珪砂の製造・販売

- 東硝株式会社**
ガラス製品の販売

- イチノセトレディング株式会社**
ガラス製品および付属品の販売

- 東洋エアゾール工業株式会社**
エアゾール製品・一般充填品の受託製造・販売

- Toyo Filling International Co., Ltd. (タイ)**
エアゾール製品の受託製造・販売

- Toyo & Deutsche Aerosol GmbH (ドイツ)**
エアゾール製品の製造・販売

- 東罐マテリアル・テクノロジー株式会社**
フリット製品、顔料およびゲルコート等の製造・販売

- 多瑪得(上海)精細化工有限公司 (中国)**
無機顔料(複合酸化顔料)の製造・販売

- 多瑪得(廈門)精細化工有限公司 (中国)**
ほうろろ、タイル、陶磁器用のフリット、釉薬、人造大理石用ガラスファイラーの製造・販売

- 日龍発展有限公司 (中国)**
多瑪得(廈門)精細化工有限公司の持株会社

- TOMATEC America, Inc. (アメリカ)**
無機顔料、フリット等の輸入・販売

- PT. TOMATEC INDONESIA (インドネシア)**
フリットおよび顔料の製造・販売

- Can Machinery Holdings, Inc. (アメリカ)**
持株会社

- Stolle Holdings, Inc. (アメリカ)**
持株会社

- Stolle Machinery Company, LLC (アメリカ)**
製缶・製蓋機械の開発・製造・販売・各種サービス

- Stolle Europe Ltd. (イギリス)**
製缶・製蓋機械の開発・販売・各種サービス

- Stolle EMS Group Limited (イギリス)**
持株会社

- Stolle European Manufacturing Solutions Limited (イギリス)**
製缶機械の販売・各種サービス

- Stolle EMS Precision Limited (イギリス)**
製缶機械部品の販売・各種サービス

- Stolle EMS Polska Sp. z o.o. (ポーランド)**
製缶機械の販売・各種サービス

- Stolle Machinery do Brasil Industria e Comercio Equipamentos Ltda. (ブラジル)**
製缶・製蓋機械の製造・販売・各種サービス

- 上海斯多里機械有限公司 (中国)**
製缶・製蓋機械の販売・各種サービス

- Stolle Asia Pacific Co., Ltd (ベトナム)**
製缶・製蓋機械の販売・各種サービス

- 東罐商事株式会社**
石油製品・PETボトルリサイクル商品の販売、製缶用鋼材の販売

- 東罐共栄株式会社**
損害保険代理業、生命保険代理業、不動産賃貸管理業、宅地建物取引業、旅行業

- 株式会社リンフォテック**
自己リンパ球療法支援、同医薬品化